

イラク戦争開始から一年

戦争と死刑をめぐる

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

三月二〇日の土曜日はあいにくの雨でしたが、それでも東京日比谷公園には万を越す人々が集まり、「終わらせようイラク占領！ 撤退させよう自衛隊！」の集会・パレードが行われました。私たちが数万人の中の数人でしたが、「東京拘置所のそばで死刑について考える会」ののぼりを持って参加しました。

☆☆☆

世論調査では、日本のイラク派兵の是非については賛否が伯仲していると報道されています。一方、死刑制度の是非については、設問のしかたにもよりますが、即時あるいは将来的に廃止という意見の人はまだまだ少数であることは事実のようです。日比谷公園に集まった人々の中にも死刑は必要だという意見の方は多かったでしょう。その人たちに私たちののぼりはどのように映っていたのでしょうか。

☆☆☆

戦争と死刑を考えることは国家による殺人を認めるのか、認めないのかという問題にいきつきます。理屈としてはさまざまな考え方があるでしょう。しかし、仮にそれを認める場合であっても、戦争は極力回避しなくてはならないし、紛争は平和的な手段で解決したいという思いは多くの人にとって共通のものではないのでしょうか。そしてそれは、死刑制度についても同じように考えられないのでしょうか。

逆に、死刑問題の観点から今回のイラク戦争を見ると、イラク戦争は、圧倒的な軍事力を持つアメリカによるイラクへの死刑執行のようでもありました。イラクの大量破壊兵器の有無がイラク戦争の大義をめぐる争点とされていますが、いまだにその証拠が出てこない中で、これが「冤罪」であった可能性が高まっています。国家のあやまちはどう裁かれるのでしょうか。

☆☆☆

私たちは戦争に反対する思いと同じ根拠をもって、「死刑について考えてみませんか」と呼びかけています。今は少数であっても、声をあげ続ければいつか理解を得られる日が来るのではないかと期待しながら七年間近く続けてきました。

☆☆☆

先日、立川の自衛官官舎にイラク派兵反対のビラを配った人たち3人が「住居侵入」として、逮捕され、起訴されました。たくさんのチラシがポスティングされている中で異例のことです。戦争反対の声をあげることで自分が犯罪とされてしまったのです。「平和的な手段」による反対の声を押しつぶしながら日本は戦争への道を歩んでいるようです。

だからこそ、いっそう、私たちはささやかな声であってもあげ続けていかなければと思います。